

# 本日6.29文・学生大会を成功させ、 本館封鎖で斗おう！

倫理学有志アップール

登校された学友諸君！  
就中文学部自治会に結集する学友諸君！

秋々倫理学の斗う部隊は、諸君に押し、本日の学生大会に結集し、スト続行、本館封鎖の斗いに参加されることを心から訴えたい。

周知のように、或る十四日の、我々の闘いスクラムによる学長送介筑波移転推進を保障するもの、阻止斗争の敗北、三輪光雄学長の突現という事態に巨額を伴った移転推進派は、二の日に私塾裡に評議会を組織し、調査と計上を決定していった。(これに参加していった文学部評議員は、理学部に於ける調査と計上の提案を何ら粉砕し得ず、自ら退席することをもってし、かつ反対の意志を示し、互ひつたのである)として、数、體、体の教授会ではその争議承認が確認され、理学部においては、二十六日の阻止行動、大衆団交の実現により一応

くいとめられたものの、承認は時間的困難であるといわざるを得ない。

このような調査と計上、それにたいして予定されているであろうM.P.の最終

推挙、という移転推進派の動きに押し、二十六日より(旧執行部系諸君の完全

な日和見のもとに)乗崩された秋々のストライキ斗争がざり開いていった現局

面は、あまりにも厳しいものであるといわざるを得ない。即ちそれは、二十六

日対理教授会団交における学部長、評議員の「決意」に満ちた「沈黙」の前に、争

役承認阻止、ヤニの白紙撤回、評議会団交実現の目標をたじひとつ勝ちとり、

亦、そこに結集した多くの学生の中に一定程度の消極感、分散化傾向すら生み

出してしまふことに満腹に示されているだろう。それに加え、二十七日の学生

大会が圧力的に成立しなからず、評議会団交を進める唯一の方針である本館封鎖

を打ちとりえなかつたという二つによって、オムレブルの調査と計上を阻止

し、評議員評議会団交を打ちとる計いさより一歩困難にしてしまつておると言

わねばならない。このように見えてくるとき、我々は本日の学生大会において、

中絶封鎖の方針の確立を志心として打ちとり、断乎たる反響の計いを組んで

いくのであると信じておきたい。

だが、このような秋々の斗い上、もはや明確に阻害物としてあらわれてきて

いるのが旧執行部系諸君であるのだ。二十五日の学生大会において時

時的差枚のエネルギーの前に屈服し、圧力的に罷免されたといった彼らは、又ト突

入后、一切の斗争放棄を志すの心算ばかりな、この期に及んで「孤立」をおそ

れ、フマけた「スト」方針を志すことによつて閉らかに斗争の阻害物として登

場してきているのだ。現在では、彼らも(いつとも)争い上るにことおそれる

彼ららしく、或る斗争的学友からとりこのことを恐れてか「本館封鎖」の志

のほ必ずしも反対しないし、と主張し出している。しかし、「時勢尚早」さ

あるのだ、と。

その内実が如何の様なるものがあるにすぎない。即ち

①争い相対は外部へ押し出されおこしているのだから本館封鎖をしてもムダ

だ。②本館封鎖をしても学長、評議会団交が必ずしも打ちとれるという展望が

ない。③今は秋々の斗いの方が強い。理学部にも教育課部にも物さなけ、斗い

の難を大きく抱えていなければならぬ。

以上のことから現段階で本館封鎖を志すことはマイナスの面の方が多い、と

いうのである。

ます米一に、①に因して言ひなら、これは全く  
 逆転した思考方法であるといわざるを得ない。時期  
 が遅れば遅いほど、畢竟レベルの阻止は困難  
 になって行くのは必然なのだ。まさか今まで阻止し  
 てこなかった。という我々の斗争の弱さを暴露し  
 て行くべきその時に、今サラムカケ などとつぶや  
 くのは完全に後手屈みであるといへざるを得ない。  
 オニに ②に因して。我々の斗争は、かつて一度で  
 も、このパーセントの可能性に達し、止めたこと  
 があつた。だろごか？ 本會判領を担う我々の腹中に  
 ぶつて、長、評議会を団交の場に引きずり出して  
 いくこと、が、現在残されている最大の可能性な  
 のだ。

③に因して

「モット モット たたないの論を、だが  
 学友諸君、このよう、とははいったい何處、何年  
 間、世かれ続けしてきた。だろごか？ 遅れてハ  
 る学友と、なるものを口から、斗争の白煙化を許さ  
 ずとしてハる諸君は、昨、の、ヶ月近くにもわた  
 るスト斗争の極めな数北を、このように素  
 括しているのだらうか？ まうん、は、斗争を  
 ひろげ、強めて行くことを望んでハる。たかそ  
 れは、「おくられた学友」なるもの、我々、を、  
 わせることになつて現現するのを、決して、  
 我々の強さを斗いになつて、まことに、  
 諸君のハわゆる「遅れた学友」をも、強めて行く  
 ハうことになつて、しか斗いの激化、は、大はあり  
 えがハいのだ。

ハ、ハ、むしろ「まだ遅れた学友」ハるから、  
 と、学友諸君は、自らハ斗争の学友を、  
 かまだ遅れてハるから、と、ハうことになつて、  
 マイな「みんが」に、強いて、  
 というべきである。「遅れてハる、みんが」  
 というのは、最も「遅れてハる」のは、  
 言うは、  
 のではないか？ 斗争の激化、は、このように、  
 必然、  
 「モットモット」  
 のは、  
 的に、  
 を、  
 ッコに、  
 主、  
 いく、  
 元、  
 して、  
 想、

学友諸君、我々はこのように「時期尚早」とハつ  
 になつたら「尚早」でなくならんといふのか？  
 の右翼性を断りして断りし、本日、  
 館判領の決定を斗いと、大、  
 対学長評議会団交を、  
 ない。

学友諸君、6、20 調査費計上決定断り、  
 ター、  
 を、  
 大月 二十九日

☆ 6-20 評議会決定、白紙撤回！！

☆ 調査費計上断り阻止！！

☆ マスタープラン委員会、即時解散！！

☆ 対評議会大懇団交を、  
 大月二十九日

☆ 調査費計上断り阻止！！